

中小企業と留学生をマッチング

中小企業の人材不足の解消、留学生の就職率向上と定着を目指す、その思いとは。

一般社団法人グローバル愛知 代表理事
ナガサキ工業株式会社 代表取締役社長

長崎洋二

外国人＝貴重な戦力

中小企業の多くが人材不足に苦しんでいる。また昨今の賃上げの機運に対応することも難しく、ますます人材の確保が困難な状況になっている。日本の企業の99.7%が中小企業であり、その多くが大企業のサプライチェーンを支えており、大企業にとっても人ごとではないはずである。

グローバル愛知とは

グローバル愛知は「中小・中堅企業の人材不足の解消」「留学生の就職率向上と定着」という2つのミッション達成のため、会員企業・留学生に様々な支援サービスを提供している会員制の非営利団体である。メインサービスは中小企業と留学生のマッチングで、産官学と連携しながら外国人に門戸を開いた企業ネットワークの構築を行う。会員留学生の国籍は様々で、中国、ベトナムなどのアジア圏の学生を中心に欧米、アフリカ系の学生も登録している。会員企業には、製造業を中心に建設業、商業、サービス業、IT関連など様々な業種の企業が名を連ねる。

設立の背景

日本は少子高齢化の時代を迎え生産年齢人口は減少し、中小企業は今以上に人材確保が難しくなることが予想される。かたや、大好きな日本に留学し日本での就職を希望する留学生が就職できていないという現実がある。この2つの課題を解消すべく、グローバル愛知は中小企業

経営者7人と大学教授によって設立された。

中小企業の間違った認識

しかしながら、日本は他国と比べ、外国人の受け入れが遅れているのが現状である。企業からは外国人材は離職率が高いという思い込みや、ビザ申請や言語への不安など消極的な意見が多く聞こえる。また、「外国人材＝安い労働力」という考えをもつ企業はまだ多い。企業は「外国人＝貴重な戦力」という認識をもつべきである。

留学生の情報不足

そして、留学生側の課題もある。日本には現在約30万人の留学生がおり、日本で就職を希望する留学生も多い。しかし、日本人学生と留学生を比較すると、日本人学生の内定率は8割であるのに対し、外国人留学生は4割にとどまる。根本的な原因として留学生に日本の就職活動の情報が入らず、就職活動のスケジュールに乗り遅れてしまうという問題がある。日本では新卒一括採用が基本だが、海外の場合は、就職活動は卒業間際や卒業後に行うものであったり、インターンシップで経験を積んでから就職という流れもある。そのため、日本の就職活動のスケジュールを知らないまま卒業を迎えてしまう学生や、企業との出会い方が分からず、就職を諦めてしまう学生もいる。就職が決まらず母国に帰らざるを得ない学生も多い。

中小企業向けサポート

グローバル愛知の企業向けのメインサービ